

令和3年度 第3回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和3年8月20日（金） 午後6時～午後8時5分
開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム
委員：藤野（会長）、大嶋、辰巳、大久保、鈴木、鷹津、高安、中尾、萩原、羽月、細合 ※敬称略
事務局：新堂、消、川添、出水、時田、川下（文化・スポーツ振興課）
南、田中、松田（関連部局）
北芝、中神（文化振興事業団）
江藤、飯塚（地域計画建築研究所）
傍聴者：なし

1. 開会

事務局より欠席者等の説明、配布資料の確認。

事務局○前回の審議会の議論を踏まえた答申案の修正箇所が広範囲に渡ったことから、本日予定していた市長への答申は延期し、8月26日（木）に藤野会長に代表してお願いすることになった。このため、本日は答申案の最終確認をしていただく場としたい。

会長より会議成立の確認。

2. 審議

（1）芸術文化振興に関する条例の骨子についての答申案の最終確認

事務局より資料1、資料2の説明。資料2の※については資料3、先にいただいたご意見に対する対応については追加資料で説明。

会長○事務局より説明があった事項について意見はあるか。まだ十分に咀嚼できていないところもあると思うが、意見があればお願いしたい。

A委員○事前に資料をいただいたため、予め意見を事務局に提出した。私自身は原案や意図を説明したが、文章の文言作成の能力があるわけではないため、その後事務局で作成していただいた修正案に賛成だ。皆様から他の表現がいいという意見があれば言っていただきたい。追加資料に意図も記載いただいております、それが反映されているなら異論はない。

会長○A委員の提案は良いと思う。それを事務局で修正いただいた内容もスッキリして落ち着いている。

ただ1点、芸術文化活動への支援という表現だけでは弱いということで、芸術文化そのものに対する支援、育成という修正案の提案があった。文化庁も芸術文化の本質的価値という言葉を使っているが、マジックワードだ。本質的価値ではない社会的・経済的価値を表現したいがために、対比で本質的価値を使っていると考えており、イギリスの文化政策の影響を受けており腑に落ちない。芸術文化そのものの本質的価値は何かと問われると説明は難しい。本質的な素晴らしさを経験された方は理解できるが、経験や出会いがない人にはわからず、逆にマイナスにもなる。また、私は全体主義時代の芸術文化政策も学んできたため、芸術文化への支援が政治的背景に歪められてきた事例も見て来た。芸術文化そのものをどう説明すればいいのか難しい。そのため、対案として考えるのは、芸術文化活動は政治的な思惑、行政権力や経済的な動機から切り離され

たところで成り立つべきであり、芸術の自律性（オートノミー）が確保されることが大切だ。これをわかりやすく言うと、自由な芸術活動への支援となるが、支援というのも難しく、ここにも政治的な思惑や経済的な思惑が入ってしまう。自由な芸術文化活動のための環境整備くらいが日本では相応しいのではないか。自由な芸術文化活動のための環境整備及び人材育成。基盤整備でも良いが、ハコモノをイメージする方が多いため、環境整備のほうが良いのではないか。

B 委員○芸術文化活動への支援及び人材の育成を、自由な芸術文化活動のための環境整備及び人材の育成とするということか。同じことを意味するのか。それとも、言い換えることでニュアンスが変わるのか。

会 長○芸術文化活動の主体というのは、内面的な個々の活動だ。それに対して、行政や経済のコントロールが働かないようにすることが大切だ。何のために支援をするのかを考えた場合、目的を持った支援になると制限がかかり、主体的な活動が損なわれることがよくあるため、それを防止するために、直接的な表現ではなく、間接的な環境整備という表現とした。目的に縛られないようにするためには、行政は環境整備までに留めるべきだろう。中身については関与しない。

B 委員○そのように言い換えることで、政治に縛られることなく自由に活動できるということか。

会 長○芸術文化活動とは何か。特定の目的に寄与する芸術文化になってしまわぬように、あえて自由な、または主体的な芸術文化活動ができるような環境整備をすることが、行政の使命だ。

B 委員○私が受ける印象では、支援が外されることによって、行政から突き放されるイメージもある。ここまでやったから、後は勝手にやってほしい、という印象を受けてしまうがどうか。支援のほうが行政も寄り添ってくれるイメージがあるが、この言い回しでも行政は寄り添ってくれるのか。

会 長○状況次第だ。環境整備のほうが遠回りで他人事のようにも聞こえるが、一方で芸術文化に行政が介入することを食い止める意味にもなる。歴史的な研究をする立場からすると、行政が介入するケースが多い。

B 委員○かなり昔で、独裁的支配者が出てきた時というイメージがあり、今の時代でもあるのか。

会 長○今でもあり、日本でもそうだ。例えば支援しないということも介入だ。「これは行政が関わってはいけない」と政治家が発言する場合、そこを支援しないというのは介入していることになる。逆に、行政や政治から見て好ましいものだけを支援しているとも言える。それを食い止めるためには、環境整備に留めておくほうが良いと思っている。

B 委員○勉強不足で、市民が感じる印象ばかり考えていたが、理解した。

A 委員○発言された気持ちはよくわかる。条例で環境を整えることが担保され、計画ではニュアンスとしては支援になるかもしれないが、実効性のあることを寄り添っていく施策として入れていけば良いのではないか。話を聞いて、「支援」という言葉の取り扱いには慎重にしたほうが良いと感じた。

会 長○難しい言葉で言うと、文化権は人間が文化的に生きる権利だが、文化権には2つの側面があり、自由権的文化権という権力からの自由、行政からの自由があり、文化的主体に関与する力を排除する権利だ。これが一番重要なベースだ。そして次のレベルとして、社会権的文化権という、行政に対して芸術文化活動ができるように保証することを請求できる権利が出てくる。しかし、社会権的文化権だけが肥大化すると、権力に握られてしまうと怖いことになる。ワイマール共和国のような民主的な制度の元にあったドイツから、なぜナチスが出てきたのかが一番の謎であり重要なポイントだ。ワイマール時代には社会権的文化権が至れり尽くせりで保障されていたが、これをナチスが乗っ取り支配したため、全体主義的な文化政策になっていったことがわかった。そこが私の原点であり、考えてしまう。このため、自由権的文化権を保証することが重要であり、特に条例ではそこを意識したほうが良い。その次に基本計画で社会権的文化権を保障するような立て付けが良いと思っている。条例の中でも、2つの側面がバランス良く記載できれば良いが、なかなか技術的にも難しい。

今回は環境整備とすることで、環境整備に対する請求権は生き残る。

C 委員○今話を聞いて納得した。初めにお聞きしたときは難しいと思ったが、「自由な」という言葉が入ることは重要だ。環境整備と言うと広い範囲で捉えられるため、条例としてはそのほうが良いだろう。

A 委員○「自由な」あるいは「自立的な」芸術文化活動がまずあるべきであり、それが環境整備で担保されるというのが良い。ただ、①に記載されている環境整備と、④に記載される環境整備が混同されないようにしたいが、④単体での議論では今の話で納得できたため、環境整備の言葉の使い分けができればよい。

- 会 長○①と④が同じになる。八尾ならではというのがポイントだが、それだけではなく、人間にとって普遍的な権利としても考えたい。私も拘っているわけではなく、「自由」が頭に付くのであれば、支援でも良いと思っている。
- A 委員○①を「創造と交流の基盤整備」としてはどうか。④を環境整備とするなら、①を変更すれば棲み分けができるかもしれない。
- 会 長○①で「基盤の環境整備」とした理由はあるか。
- 事務局○当初は「基盤の基盤整備」となっていたため、環境整備とした、基盤の整備でも良い。
- 会 長○では、①を「基盤の整備」、④を「環境整備」としますか。私は「自由な」が入れば、「支援」でも良い。
- C 委員○「支援」というとかなり限定的になるため、もう少し広い言葉のほうが良いと思う。
- A 委員○意味合いは十分協議されているので良いが、言葉にするのが難しい。「自由な」という言葉が担保されれば「支援」でも良い。環境整備よりも支援はわかりやすい。ただ、C 委員のご意見にもあったが、条例では環境整備としていても、計画で具体的な支援を規定することもできるため、どちらでも良い。
- 会 長○多数決にしたい。頭には「自由な」をつけて、「環境整備」か「支援」のどちらかにしたい。
- B 委員○「環境整備」とする場合は、①は「基盤整備」となるのか。
- A 委員○④に係わらず、①は「基盤（の）整備」で良いのではないか。
- 会 長○①は「基盤（の）整備」とし、詳細の調整は事務局に任せる。④は頭に「自由な」をつけて、「自由な芸術文化活動への支援」または「環境整備」としたい。
- 【多数決】
- 会 長○それでは「環境整備」としたい。今の修正内容について、事務局から確認してもらいたい。
- 事務局○修正箇所の確認を行う。追加資料を見ながらご確認をお願いします。
- ・ P.1：前文 第1段落 → 修正案で承認
 - ・ P.1：下から7行目 → 修正案で承認
 - ・ P.6：下から6行目 → 修正案で承認
 - ・ この資料にはないが取り組む内容の① → 「基盤の整備」に修正
 - ・ P.6：取り組む内容の④
→ 「自由な芸術文化活動の環境整備及び人材の育成」に修正
- 会 長○今確認していただいた修正を行った内容で、8月26日に答申を行う。

(2) (仮称) 八尾市芸術文化推進基本計画の構成及び審議会・ワーキング部会等での審議事項

事務局より **資料4**、**資料5**、**参考資料**の説明。

- 事務局○第2章の主な施策・事業で、②③④の図は一方通行の矢印になっているが、必ずしも一方通行のものではなく、双方向とするべきものだった。また、前は段階的なメニューを用意するイメージと説明していたが、すべての人が芸術文化に関心を持ち、段階的にステップアップしていかなければならないと強制するものではない。いろんな方がおられる中で、その時に欲しいメニューを選択できるような環境を目指したいということ表現している。
- また、資料5の内容については10月のワークショップで追加していただきたいと考えている。
- 会 長○計画期間が満了するのが7年後の令和11年3月だ。その時点での八尾市の芸術文化のイメージについて意見がほしい。難しいと思うが、産業振興のビジョンマップは面白く、ここまで具体化するにはワークショップなども必要だ。
- D 委員○八尾で芸術文化振興の計画を策定されることはうれしく思っている。過去に芸術文化振興プランがあったことすら知らなかった。かなり前から取り組まれていると思うが、未だに八尾市内で練習場所を探すともまったく見つからない。何も実現できていないのかもしれない。八尾南駅近辺に住んでいる方は、プリズムホールを知らない方も多い。鑑賞する時は大阪市内へ行くほうが早い。そうした大阪市内に鑑賞に行くような活動も含めて、支援の対象にしてもいいのではないかと。
- 八尾フィルハーモニー交響楽団は、東大阪で練習させていただいているが、そこまで不自由を感じていない。市外からの参加者も多いため、かえって東大阪のほうが近い方もいる。「活動を八尾に」となっていたことが少し気になったが、新しいプランを考えたい際、具体的にこれをしてほしいと盛り込むことは難しいかもしれないが、何かを鑑賞する機会について、八尾市内に限定する必

要性はないのではないかと。「八尾ならではの」というのが気にかかる。

八尾市と大阪市は協定が結ばれており、大阪市内の図書館は八尾市民も利用できた。学生時代は当たり前に使っていたが、八尾市以外の方は大阪市の図書館を使えなかった。八尾市はたまたま使えたが、こうした縛りが外れるともっと便利になる。八尾市内に限定する必要があるのかと思う。将来的に八尾市が近隣市よりも優れていると言えれば良い。今でも優れているところはあるが、今は東大阪より少し劣り、豊中や吹田よりも遅れて、西宮にはまったく届いていない。府内では八尾市は比較的マシだが、これはプランが策定されているからなのかもしれない、新たな計画に期待するところだ。

- E 委員○具体的なことを話すのは難しいが、現状はコロナ感染の拡大があり、やっていないというよりも出来ていない活動が多い。7年後は日常が戻ってきていると良いが、市民が日常的に足を運ぶ憩いの場所に、芸術文化が根付いていたり、新しく毎年恒例の楽しみにしているイベントや展示が、7年後にはもっと身近に多くあったりすると良い。
- B 委員○私は妄想癖があり、将来こうなっていたら楽しいだろうという妄想が日頃からある。茶吉庵はもとより八尾市全体に対する妄想は、八尾市が持っている美術品や工芸品はたくさんあると思うが、市民全員の目に触れる機会があると良い。また街角で、ある人は音楽を奏で、ある人は絵を描き、パントマイムをやっている、そんな街角でいろんな人がいろんなことをやれる日があると良い。また、八尾のアーティストと産業がコラボし、八尾のアーティストがデザインしたものを、八尾の事業者が製品にして世に出す。そのアーティストが身体障がい者や発達障がい者であっても、その作品が注目されて、ラッピング電車が走っていると良い。芸術と言え八尾市に行けばいいという場所になっており、7年後に芸術の中心地、発信地になると良い。そうすることで市民の目に触れ、新たに挑戦する人の後押しができ、またそれが経済活動や社会の基盤整備につながっていくと良い。あくまで妄想だが、皆がニコニコ笑いながら芸術に触れ参加している状況をつくるためには、運営する人の育成や場所、環境整備など、多くの下積みが必要だ。それをこの条例で支えていければ良い。
- F 委員○的はずれなことを言うかもしれないが、ハコモノが必要になってくるのではないかと。東大阪に美術に特化した会館がある。特化したものをつくるためにはハコモノの予算も必要だが、八尾の図書館を建て替える際に和室もつくってもらい、小さな舞台があれば、日本舞踊の発表会や、謡や仕舞を発表できる場所ができるのではないかと妄想した。今は稽古をする場所がないことがネックになっていて、愛好者も減っている。高安能の振興とあるが、高安能はまだ研究も必要だ。昔は農家の名主やお金持ちの方が能舞台を持っており、能のサークルが10も20もあったと聞いている。それが寄り合って発表会をしていたが、そのような機会もなくなり、場所もなくなってきた。特化したハコモノをつくるには予算が必要であり、予算を出すと口も出されることになるため、7年後についても不安を感じている。
- C 委員○7年後の八尾の姿を考えるのは難しいが、コーディネーターの育成が出来れば、7年後にはコーディネーターが実際に企画したことが街中で起こっていると面白い。商店街や自治体、青年団の方は大変だと思うが、いろんなコミュニティの方々が、芸術文化を通じてまちを盛り上げていると面白い。縦割りではなく、水平につながっていくことが八尾のまちでできると、八尾で育った人が帰ってきたくなり、八尾に住みたい人も出てくるだろう。また、昔から八尾にいた人は、その財産を次の世代につなぐことができるのではないかと。7年後ではまだ早いかもしれないが、目標にして取り組むのは良いのではないかと。
- G 委員○一市民として考えた場合は、芸術文化の敷居は高い。このような条例ができ、もっと皆さんの身近なものになってほしい。これからは多様性がキーワードだと思うが、いろんな方、障がいのある方ない方、外国の方、人生の先輩や若者などが、芸術文化を通じて交流できる場になると良い。
- 私は学校関係だが、今までは学校は教育現場で、教え込むことが中心だったが、今後は自分で課題を見つけて解決していく力が子どもたちにも求められる。自由に自己表現ができる子どもたちが育つ八尾になってほしい。
- H 委員○7年後は情報発信の方法が変わるだろう。我々はラジオだが、情報発信自体というよりも、まちに出てくる人が減るのではないかと。家にできるだけ居て、イベントはバーチャルで見て、買い物もインターネットで、医療もオンラインで受けるようになり、まちに出る人は減少するのではないかと感じている。ですから、大きなホールやショッピングセンターに行くのではなく、自宅のインターネットで本物の音が聴こえ、工芸品も3Dで目の前で見ることができ、3Dプリンタで作った美術品などを触ることができるなど、おそらく個人のプライベートルームでそ

んなことまでできるようになるのではないか。情報発信の方法が変わるといふことは、全てが変わり、人が移動しなくても本物を実体験できるようになる。そうなれば、バリアフリーやLGBTQなどの問題もなく、誰も動かなくなる。そんな7年後、10年後は怖いけど、間違いなくそのような方向に進んでいくだろう。

A 委員○非常に怖い話を聞いた後だが、だからこそ、文化会館は7年後のイメージとして、子どもたちの笑顔が輝いているまちを大きな柱として目指したい。どうしてもいんなことをビジョンとして掲げてしまうが、物理的に難しい。ここでひとつに絞るなら、子どもたちの健やかな育成としたい。

今のご意見はさすがだと思ふし、そのような時代がやってくる可能性は十分ある。ただ、子どもはいつの時代にあっても素直で柔軟であり、好奇心も旺盛だ。先ほどのご意見にもあったが自己表現もできる、人間らしい子どもであってほしい。しかし、外に出なくても、関わらなくても、ネットですべて巧みに代替できるようになったとしても、それでも本物だとは思わない。どんなに巧みでもレプリカであり、本物はゴッホが本当に自分の手で描いた絵だからだ。その事実に対して心が震え、そのような感性を持った子どもたちは、大人になってもそれを忘れない。その上で技術革新に触れ、イノベーションと併用できる。人間らしさのないまま技術革新に走ることは怖くて危険だが、我々の仕事は生身の人間の感情を大切にしたい。

7年あれば、絵画や写真、造形、音楽など様々な芸術に触れて欲しいが、私の中では演劇が子どもに一番適していると思っている。お話をする、人のセリフを聞く、相手との関係性を考えてセリフのキャッチボールをすることで、相手の心情を理解し、総合芸術として衣装やストーリーを考え、体を動かすなど、心身の発育全般やコミュニケーション能力の開発にも役立つ。これらを知っている子と知らない子では大きな差が生まれる。平田オリザさんも言われていたが、フランスのブルデュエが提唱している「身体的文化資本」も、小さい時に経験しているかどうかで、将来的にも学歴や社会性、経済状況にまで影響する。子どもは自分の環境を選べないため、芸術文化に連れて行ってくれる親の元にいればいいが、そうでなければ触れる機会がない。それをある程度、公共の場で担保したい。我々も以前、全校生徒ではないが、文化会館が無料バスを出して、子どもたちに文化会館に来てもらって見てもらっていた。7年間あれば、今の小学校の子どもたちが最低1回は触れることができる。1回でも担保することで、7年後に共感する能力を持った子どもたちで溢れていて、それを下の子たちにも受け継いでいけるような状態ができていけば、子どもたちが心からイキイキする笑顔の八尾市につながると思っている。ネットも便利であり悪くないが、それだけではなく、芸術文化に触れる機会を担保して、そのような7年後になってほしいと思ふ。

I 委員○先ほどの情報発信の方法が変わり、すべてが変わる話を聞いて納得したが、外に出て、生の芸術に触れることは大切だ。まちのどこかに芸術があふれていて、発信しやすく、気軽に発表できるまちになると良い。そのためには運営する基盤整備も大切だ。企画を運営できる方や発表の場の整備も必要だろう。

先日、アリオで八尾の画家がご自分の作品を発表していたが、図書館にライオンの絵があるが、それを描いた方で、普段芸術に触れない方もアリオには行くので、敷居が高いと考えている方々のきっかけになったのではないかと。アリオのような場所での作品発表は良いだろう。

J 委員○生まれも育ちも八尾だが、八尾にはお寺がたくさんある。昔は地元の方々がお寺に集まり様々な活動で活用してきたが、今は檀家との問題もあり、住職も代替りして声掛けも難しくなっている。そういうお寺を見直してはどうか。寺内町の願証寺でコンサートをしたことがあるが、願証寺はオープンで、バーも併設されており、大きなお祭りもされている。お寺は多数あるので、もっと活用していけば、皆さんの発表の場所も増えるだろう。例えば年1回、高槻ではジャズフェスティバルがあるが、ジャズ好きしか参加できない。八尾では河内音頭祭りがあるが、河内音頭が好きな人しか参加できない。また、アリオやプリズムホールを中心とすると、私は北西に住んでいるが、東の方とは分断されたイメージがある。東西南北の中心を検討して、交通の便を気にせず皆が集まりやすい場所として、公園や空き地、空き家、廃校でも良いので、そのような場所づくりをすれば、7年後は今より活気のあるまちになっているのではないかと。東西南北がバラバラだ。

D 委員○交通機関がないからだ。特に南北はない。

J 委員○外国の方が多く住まれており、外国人の友人に聞くと、八尾市は永住したい場所だと言っており、東大阪から引っ越してきた方もいる。アジアに限らず欧米の方もいる。外国人の方々もわかりやすい集まり、河内音頭と並行して、1年に1回、皆が楽しめることを考えてはどうか。

会長○多文化共生フェスティバルのようなものだろう。

皆さんの意見には多くのヒントがあった。八尾ならではの文化的コモンズをつくるという視点では、八尾の中に眠っている文化的資源をどう活用するか、磨き上げるかが重要だ。これから新しい計画をつくるためにひとつの柱だ。ローカルな問題ではあるが、外国人が住んでいるということはグローバルな視点も入ってくる。グローバルとローカルは両輪や合わせ鏡だ。

7年後の日本と世界の関係性の中で、八尾という地域社会がどう変化しているのか、そこからどのような社会課題が生まれてくるのかも考えなければならぬ。先ほどのデジタル化の問題も火急な話だが、この1週間にしても、本来なら真夏の日照りになるはずなのに豪雨が続き、そして毎年のように来るのは、完全に気候変動の時代に入ったと言えるだろう。気候変動が今後さらに激しくなる中で、文化は関係ないとは言えない。気候変動を意識させるような文化政策、例えばそれを意識させるような作品を作るようなことも大事になるだろう。

また、芸術文化は優れており、強い感動を呼ぶ卓越性は重要で、それをひとつの柱とすると、もうひとつは多様性と、多様性に対する寛容性というもうひとつの基準があり、これが共存する。卓越性の基準と多様性の基準があり、多様性はバラバラではなく、それぞれの価値を受け入れる寛容性が重要だ。また、内なる共生とこれからやってくる外からの共生も大事だ。自然との共生も必要だし、子どもにターゲットを当てれば、次世代との共生も大事だ。共生・共創が重要なキーワードになる。

先程のスマートシティの話だが、スマートシティとクリエイティブシティの関係は文化政策でも話題になっており、国際的なネットワークでシンポジウムなどを実施しようとしている。スマートシティはAIに取って代わられる職業と、そうならない職業もある。7年後はそんなに遠い将来ではないが、子どもたちの将来を考えた場合、AIによって不要になる職業も出てくる。それによって、皆がそれで楽になるのかというと、逆に格差が広がる。技術や資本力を持つものが富を蓄え、持たなかったものが貧しくなる。7年後に格差が広がる可能性もある。それに対して芸術文化はどう対応するのか、それを可視化していくことが大切だ。これから起こってくる社会問題を可視化する芸術も重要だ。

その一方で、八尾サイズの文化的コモンズをどのように実現できるかということと同時に、7年後に八尾市が世界やグローバルとの関係や地球環境との中でどう変化していくのかを予想しながら、他のまちでは想像もできなかったような計画を立てられると良い。

まだ時間があるが、もう少し議論を続けるか。

事務局○楽しい議論をいただいた。時間はあるため、自由に発言いただければ良い。

会長○自由に議論したい。

E委員○話を聞きながら思い出したことがある。先日、ある方からDMをいただき、バーチャル展覧会へ行ってきた。東京や名古屋で活動してきた作家だが、コロナ禍で活動ができなくなり、作家の作品をVチューバーが見に行くという配信内容だった。最初はホームページで作家の作品を見ることとどう違うのかわからなかったが、行って見たところ、3D空間でGoogleマップのように画面上で歩き、壁に作品があって近づいて見るものだった。その時に面白かったのは、他の人がいることも感じられるようになっており、混雑した時間にログインすると他の人が邪魔になって作品が見えず、マイクをオンにすると、近くの話も聞こえるため、友人とバーチャル展覧会内で待ち合わせを行い、話しながら作品を見ることができた。3Dだからこそ、ここに壁を立てたいなど作品に合わせた細かい演出もでき、隅々まで作家の茶目っ気が溢れていて、思ったよりも感激し、満足感もあった。普段は東京開催なので、Twitterで画像だけを見て終わってしまうが、今回はバーチャルでも参加できた満足感もあり、次に関西で作品展をされる時は絶対に行きたいと思った。今回見た作品の本物を見たら、もう一度感激して見ることができると思った。そのようなことがネットに取って代わられると怖いけど、上手く活用すれば次は本物を見に行こうと思わせ、思った以上にワクワクした。この作品展は終わってしまったが、バーチャル展覧会を企画している人が増えているので、機会があれば見てほしい。バーチャルだからできる面白いことも多数あり、世界中からアクセスがあったようなものが八尾で開催されれば、見に行くことへのハードルは下がりそうだ。

会長○価値観の揺らぎがある。勤めている大学は田舎にあるため、都会から人が来ないようにオープンキャンパスをバーチャルで行うことになった。VRでバーチャルキャンパスツアーができるようにするが、バーチャルはいろんな設定もでき面白いところもあり、今の時代には合っている。しかし、巧妙だが偽物であり、最終的にはリアルにたどり着くための仕掛けだ。しかし、5年後や10年後になる

と、リアルなものを知らない人たちが大人になった時に、バーチャルとリアルとの違いすらわからなくなるかもしれない。そのバーチャルはフェイクかもしれないが、それが本物だと思いきや、価値観の転倒があるかもしれない。我々はリアルで生きてきたので、その違いに気がつくかもしれないが、VR化が進むと、何がフェイクで何がリアルかわからないし、作品も本物とフェイクの違いがわからない、または同じものとして出てくる時代になる可能性がある。そうした時代を見据えて計画を立てる必要もある。

F 委員○今ふと思ったが、リアルとバーチャルの違いがわからない子どもがサファリパークに行ったら、バーチャルなら動物が噛みつくことはないが、リアルだと噛みつかれる。命に係わる問題であり怖い。

J 委員○個人的な話だが、私はおじいちゃん、おばあちゃんっ子だ。私はクラシックのコンサートを中心に活動しているが、同年代だとLINEやFacebookで次の活動連絡がある。ただ、どこか冷たい感じがするため、私は一筆箋でチラシを付けて送るような古風なやり方をしている。バーチャルの世界は人間的なぬくもりが感じられない心配がある。7年後、10年後にバーチャルの世界が広がった時、70～80歳代の方は置いていかれるのではないか。新しいものに力を入れるよりも、年長者の方の満足も忘れずに、7年後を考えてほしい。

C 委員○同じく、両方あると良い。インターネットを通じた作品もコロナ禍で作ってきたが、その良さは、この場にはいない方と交流できることだ。八尾に住んでいなくても、八尾に興味のある方と一緒に作品をつくることができる。また、病気や引きこもりなどで外に出にくい方と一緒に交流して作品を作り、芸術文化について語ることもできる。ただ、それだけではコミュニケーション能力が落ちてしまうため、リアルとの補完関係が必要で、プリズムホールを中心に演劇や言葉を使って実際に交流し、海外の方で日本語が難しい場合は、身体表現から作品をつくることができる。その2つが7年後にできていれば、八尾は格好いいと思われるのではない。

会 長○どんどんハードルが上がっている。

B 委員○ギャラリーを運営しており、ネットギャラリーを構築しようとしているが、アーティストからは、ネットとリアルでは受ける感じが違うと言われている。ネットギャラリーでの投票もしていたが、ネットとリアルで投票数に違いがあり、ネットで少ない人、リアルで少ない人のそれぞれからクレームがあった。ネットとリアルで受ける印象の違いがあることを実感した。ネットギャラリーをリアルに近づける方法を考えていたが、先ほどバーチャルのお話をお聞きした。多分、リアルで見える印象のほうがより印象深くなるのだろう。本業は本屋のオーナーだが、本屋業界では紙媒体の教科書は長期記憶に落ち着き、電子教科書は短期記憶に近いと言っている。脳科学者が実証実験をした時に、脳の使われるところが違うと聞いたが、これを芸術文化にどう位置付けるのかと思った。脳科学者が、長期記憶と短期記憶は脳の動く場所が違うが、今の大人を対象とした実験のため、電子教科書で育った子どもは同じ場所が動くかもしれないそうで、脳科学者の間でも議論されているとのことだった。条例の中で、リアルとネット社会が7年後にどう共存していくかは難しい問題だ。

会 長○コロナ禍で芸術文化のデジタル化は進んでおり、これからも進むだろう。国もデジタル化に先行投資している。また、文化財は現地で本物を見ることは難しいが、これを皆が見られるようにするためにデジタル化し、これを民主化だと言っている人もいる。オーケストラを生で見られる人が少なかった時代に、今から100年ぐらい前にレコードが発売されて、社会主義者はこれで民主化されると熱狂した。そのような議論もあった。芸術文化のデジタル化は良いことなんだという価値観が広がっており、これをコロナ禍が後押ししている。批判と歓迎の両方があり、判断することは難しい。外部資金や国の資金を申請する時に、デジタル化を謳うと取りやすくなる。すると、リアルにたどり着くためのデジタル化だったのに、デジタルで終わってしまうかもしれない。大きなジレンマを抱えている。これから文化振興の計画を策定する際に、自治体は向き合っただけでよかったが、今後重要になる。

B 委員○だからこそ、リアルに触れる機会を担保することが重要だ。文化財をバーチャルで見られるようになったときに、リアルにどう触れるか。茶吉庵は文化財だが、敷居をまたがない子どもや大人も多く、理由もわかっていない。これはリアルを知らないからかもしれない。デジタルとリアルの両輪が必要だ。

会 長○話がこのように展開するとは思わなかったが、スリリングな話だった。

3. その他

事務局より 今後の審議会の日程についての説明。

事務局○計画案の答申後、1月にパブリックコメントを行い、3月に八尾市議会定例会へ報告し、4月以降は計画に基づき、施策の実施や皆さんと一緒に文化 commons の形成に向けた取り組みを進めていきたい。

会長○ただいまの説明について、質問などはないか。その他の事務局からはないか。

事務局○本日の会議の内容については、ホームページへの掲載を予定している。掲載にあたっては各委員へ内容の確認を行う。要約したものを各委員へ送付させていただくので、ご確認いただき修正があれば事務局へご連絡をお願いしたい。

現在、前回の会議録を皆さんに送らせていただいている。来週中までに返信いただきたい。修正依頼があればそれを反映した上で、ホームページに掲載させていただきます。

4. 閉会

(以上)